★ 問18) 2学期(9月～12月)になってから、あなたの学校でエイズ・性病についての授業がありましたか？
（あてはまるものすべてに○印）

1. □ あなたの県の中絶・クラミジアの状況や予防方法のスライドを使った授業
2. □ あなたの県の名刺サイズのパンフレットを使った授業
3. □ 中絶やクラミジアのビデオを使った授業
4. □ 教科書やプリントを使った授業
5. □ 外から講師が来ておこなう授業
6. □ その他
7. □ そのような授業はなかった
8. □ 授業はなかったが、文化祭で性病やエイズについての催しがあった

問19) 自分の学校用に作られたメッセージビデオ(メッセージスライド)を使った授業がありましたか？
（ひとつだけ○印）

1. □ はい　　2. □ いいえ

問20) 学校の机をテーブルクロス・花・ぬいぐるみなどで飾った授業がありましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ はい　　2. □ いいえ

問21) 2学期(9月～12月)になってから、グループで話し合ったり、作業をおこなったりする授業がありましたか？
（ひとつだけ○印）

1. □ はい　　2. □ いいえ

問22) 最後にご意見や質問、感想がありましたらお書きください。

アンケートにご協力いただきまして
本当にありがとうございました♪

必ず期日までに返送してください。　**提出期限：12月末必着**

平成20年度
WYSH教育実施状況に関するアンケート

学校名：

対象学年：

授業を担当した先生の氏名：

このアンケートを記入した先生の氏名：

連絡先電話番号：

FAX番号：

連絡可能なメールアドレス：

※WYSH教育とは、8月に実施した研修会に基づく教育のことです。

※授業を実施しなかった学校も、必ず返送してください。

※大変重要なアンケートですので、必ず期日（12月末）までに返送してください。

※一校でも返送が遅れますと、分析結果をお返しするのが遅くなり、他の参加校に迷惑がかかりますので、くれぐれもご注意ください。

必ず同封の返信用封筒で返送してください。
生徒用の2回目アンケートには同封しないでください。

アンケートに関するお問い合わせ
WYSH事務局
TEL：075-753-4354　FAX：075-753-4359

問1）配布したWYSHプロジェクトの教材ポスターを学校に貼りましたか？（どちらかに○印）

1. □ 貼った
2. □ 貼らなかった

問2）配布したWYSHプロジェクトの教材パンフレットを生徒に配布しましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ 全員に配った
2. □ 全員に配ったが、授業後に回収した
3. □ 配らなかった
4. □ 個別指導の必要な生徒に配布した

問3）平成20年9月～12月中に、研修会の予防教育（WYSH教育）を実施しましたか？（どちらかに○印）

1. □ 実施した
2. □ 実施しなかった ―――→ 問20へ

問4）下の絵の予防サイトのカードは生徒に配布しましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ 全員に配布した
2. □ 個別指導の必要な生徒に配布した
3. □ 配らなかった

資料5

先生の学校で実施された、WYSH授業についてお聞きします

問5) アンケートの対象となったクラス全部に同種の授業が実施されましたか？(どちらかに○印)

1. □ 全クラス同じ内容を実施した
2. □ クラスにより異なった

付問5-1) 具体的にどのように異なっていたか教えてください。

問6) WYSH教材のパワーポイントを使用しましたか？(ひとつだけ○印)

1. □ 全部使用した
2. □ 一部使用した
3. □ まったく使用しなかった

問7) WYSH教材のビデオを使用しましたか？(ひとつだけ○印)

1. □ クラミジアのビデオだけ使用した
2. □ 中絶のビデオだけ使用した
3. □ 両方とも使用した
4. □ まったく使用しなかった

問8) 課題提供型グループワークは行いましたか？(どちらかに○印)

1. □ 行った　　2. □ 行わなかった

「1. 行った」と答えた方にのみお聞きします。

付問8-1) どのようなテーマについてグループワークを行いましたか？

付問8-2) グループワークでの話し合いは活発でしたか？(ひとつだけ○印)

1. □ 非常に活発だった
2. □ まあまあ活発だった
3. □ どちらともいえない
4. □ あまり活発ではなかった
5. □ 全く活発な話し合いにならなかった
6. □ その他（　　）

問9) 授業導入などで、○×クイズなどゲーム的な方法を使いましたか？(どちらかに○印)

1. □ 使った　　2. □ 使わなかった

問10) 先生の学校用のオリジナルのメッセージビデオ(メッセージスライド)を作成しましたか？(どちらかに○印)

1. □ 作成した　　2. □ 作成しなかった

問11) 机にテーブルクロス・花・ぬいぐるみ等の飾りつけをしましたか？(どちらかに○印)

1. □ した　　2. □ しなかった

問12) ゲーム的方法、メッセージビデオ、飾りつけ以外で授業に関して何か特別な工夫をされましたか？
(どちらかに○印)

1. □ した
2. □ しなかった

付問12-1) 具体的にどのような工夫をしたか書いてください。

問13) 最後に先生から個人のメッセージを送りましたか？(どちらかに○印)

1. □ 送った
2. □ 送らなかった

付問13-1) それはどのようなメッセージですか？

問14) WYSH授業での授業形態は男女混合でしたか？(ひとつだけ○印)

1. □ 男女混合
2. □ 男女別
3. □ 合同部分と別部分を併用

問15) 同じクラスに実施したWYSH教育の合計時間数をご記入ください。(ひとつだけ○印)

1. □ 1コマ
2. □ 2コマ
3. □ 3コマ以上 → (　　) コマ

問16) 2回目のアンケートは、WYSH授業実施後に行いましたか？(どちらかに○印)

1. □ WYSH授業実施後に2回目のアンケートをした
2. □ WYSH授業実施前に2回目のアンケートをした

問17) WYSH教育はどなたが行いましたか？(あてはまるものすべてに○印)

1. □ 保健体育教諭
2. □ 養護教諭
3. □ 学級担任
4. □ 外部講師 (　　)
5. □ その他 (　　)

WYSH教育を実施した印象（記入している先生の感想）をご記入ください。

問18) 良かった点を具体的に記入してください。

問19) 困った点を具体的に記入してください。

問20) 研修会(WYSH教育)の教育とは別に、平成20年9月～12月中に、性教育/エイズ教育を実施しましたか?
(どちらかに○印)

1. □ 実施した
2. □ 実施しなかった

「1. 実施した」と答えた方にのみお聞きします

付問20-1) 実施した教育の内容はどのようなものでしたか? (あてはまるものすべてに○印)

1. □ 思春期の身体の発育・発達(初潮、精通)
2. □ 思春期の心の発達・不安及び悩みへの対処の仕方
3. □ 生殖に関わる機能の成熟(受精、妊娠)
4. □ 異性の尊重
5. □ 性に関する情報等への適切な対処
6. □ 適切な意思決定や行動選択の必要性
7. □ エイズ及び性感染症(感染症の予防)
8. □ 結婚生活と健康(家族計画、人工妊娠中絶の心身への影響)
9. □ その他(　　)

問21) 性に関する教育を実施する場合に、全般的に先生の学校で問題となっているのはどのようなことですか?

＊最後に＊
もし差し支えなければ、WYSH教育の授業風景の写真や先生がお作りになったメッセージビデオ(コピー)など、授業の雰囲気が分かるものがございましたら、別便にてWYSH事務局までお送り頂けたら幸いです。

２．　若者予防グループ　②

滞日ブラジル人若者に対する予防介入研究

平成 20 年度　研究報告書

≪滞日外国人グループ≫

【日本におけるブラジル人若者を対象とした予防介入に関する研究】

【平成 20 年度の研究グループ】

岩木エリーザ、中森ジュリア(NPO 法人 CRIATIVOS)

中萩エルザ(NPO 法人 CRIATIVOS、多文化共生センター兵庫)

比嘉アレシャンドレ(フォリャ E)

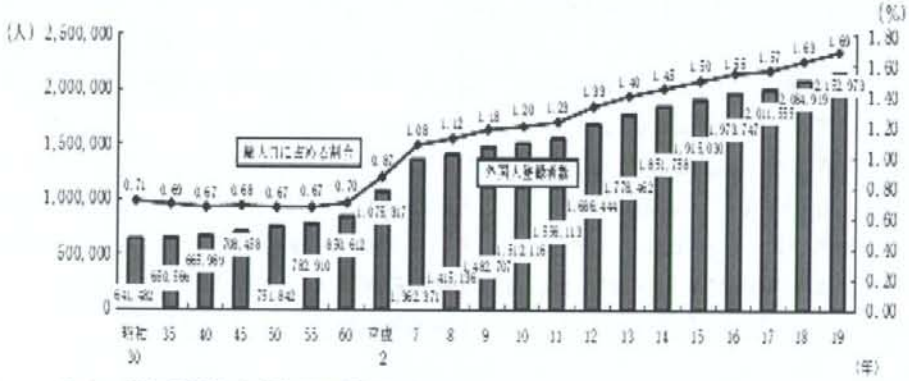
柴田イナシオ(CO. BRASTEL)

木原雅子、木原正博、加藤秀子(京都大学)

【背景】

日本における外国人登録者に関して、日本国内で中長期的に生活を送る人が年々増加してきており、今後もこの傾向は継続すると考えられる[1]。平成19年末現在の外国人登録者数は過去最高を記録し、外国人登録者数の日本国の総人口に占める割合も年々高くなっており、平成19 年末現在におけるその割合は、総人口の1.69%に当たり(215万2、973人)と高くなっており、過去最高を示している(図1)。

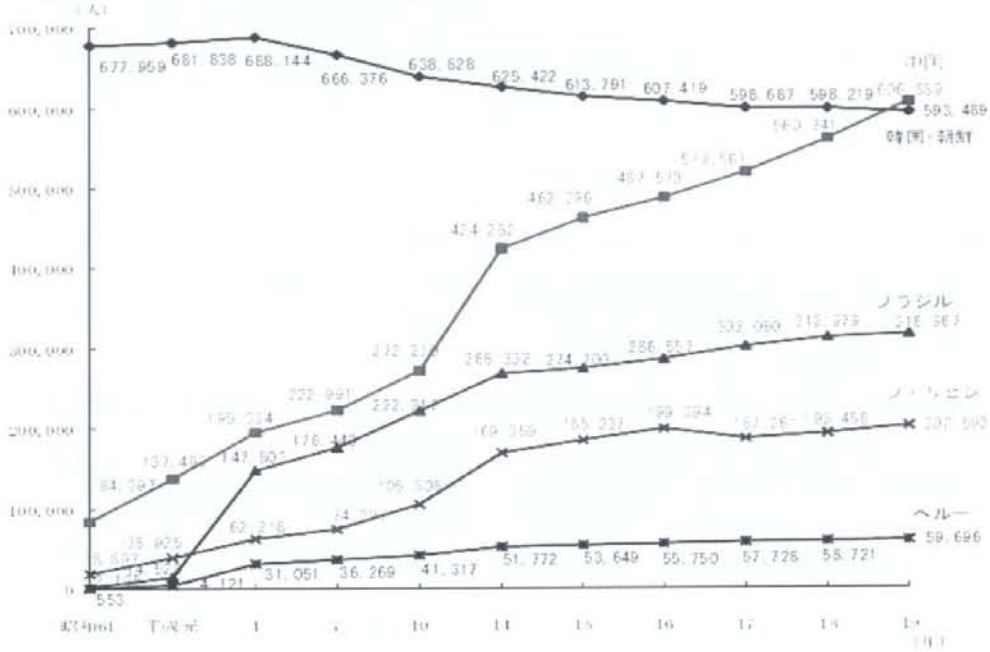
図1:外国人登録者数の推移と日本国の総人口に占める割合の推移



(出典:法務省入国管理局編 「出国人管理」平成 20 年版)

そして、平成19 年末現在における外国人登録者数について国籍(出身地)別にみると、中国が60万人以上で全体の28.2%を占め、以下、韓国・朝鮮が約59万人(27.6%)、ブラジルが約31万6千人(14.7%)、フィリピン約20万人(9.4%)、ペルー約6万人(2.8%)と続き、年別の推移を見ると、ブラジルは引き続き増加し、日本における3番目に多い外国人コミュニティーとなっている(図2)。

(図2) 主な国籍(出身地)別外国人登録者数の推移



(出典:法務省入国管理局編 「出国人管理」平成 20 年版)

ブラジル国籍住民における外国人登録者数を登録者が多い都道府県は順に愛知県が 8 万人以上、静岡県が5万人以上、その他、6千人以上の登録者がある県は 10 件となる(表 1)。

また、在留資格別でみると、日本人の子孫である日系人にあてはまる「定住者」が最も多く、約 14 万 8 千人で、次に「永住者」が 9 万人以上、そして、「日本人の配偶者」が約 6 万 7 千人である(表 2)。

日本におけるブラジル国籍の年齢分布を見ると、0 歳から 19 歳の幼児青少年数は約 6 万 8 千人に上る。内、就学年齢に相当する年齢(5−6 歳から 15−19 歳)の人数は約 4 万 6 千もいると法務局の統計から分かる(図 3)。

表 1:都道府県・国籍別 平成 19 年末現在外国人登録人員(南米出身)

愛知	80,401	滋賀	14,342
静岡	52,014	神奈川	14,107
三重	21,717	埼玉	13,950
岐阜	20,912	茨城	11,407
群馬	17,158	栃木	8,585
長野	15,783	千葉	6,087

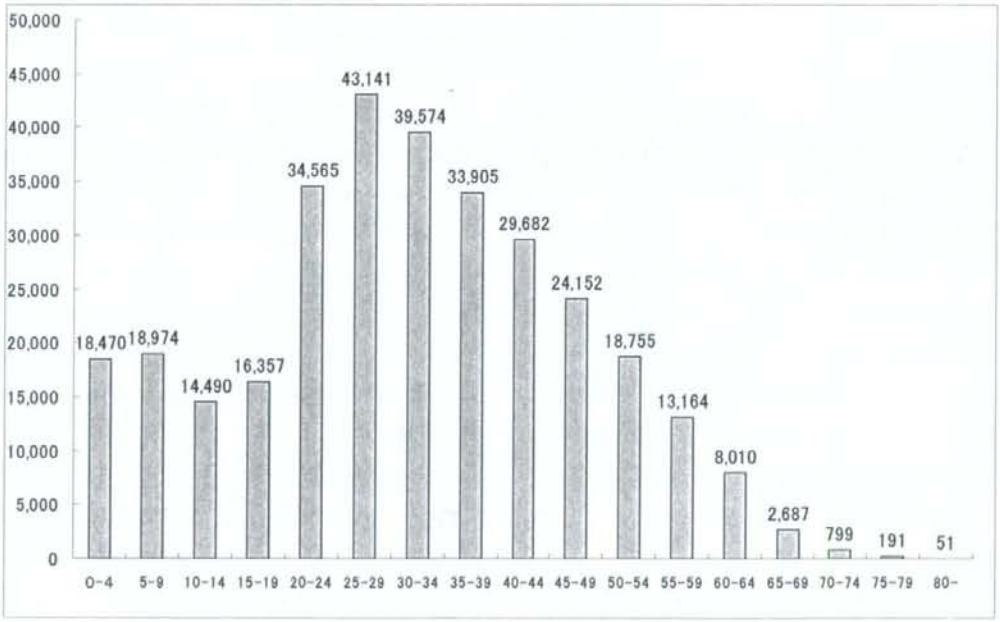
出典:出入国管理統計。入国審査・在留資格審査・退去強制手続等。2007 年版

表 2:ブラジル人における外国人登録者　ー在留資格別　2007 年末現在。

定住者	148,528	研修	94
永住者	94,358	技能	93
日本人の配偶者等	67,472	企業内転勤	93
未取得者	2,254	就学	53
永住者の配偶者等	1,400	技術	53
短期滞在	809	教授	36
家族滞在	497	投資・経営	27
留学	357	特別永住者	24
興行	228	教育	14
特定活動	179	文化活動・報道	13
宗教	121	芸術	12
国際業務	108	研究・	11

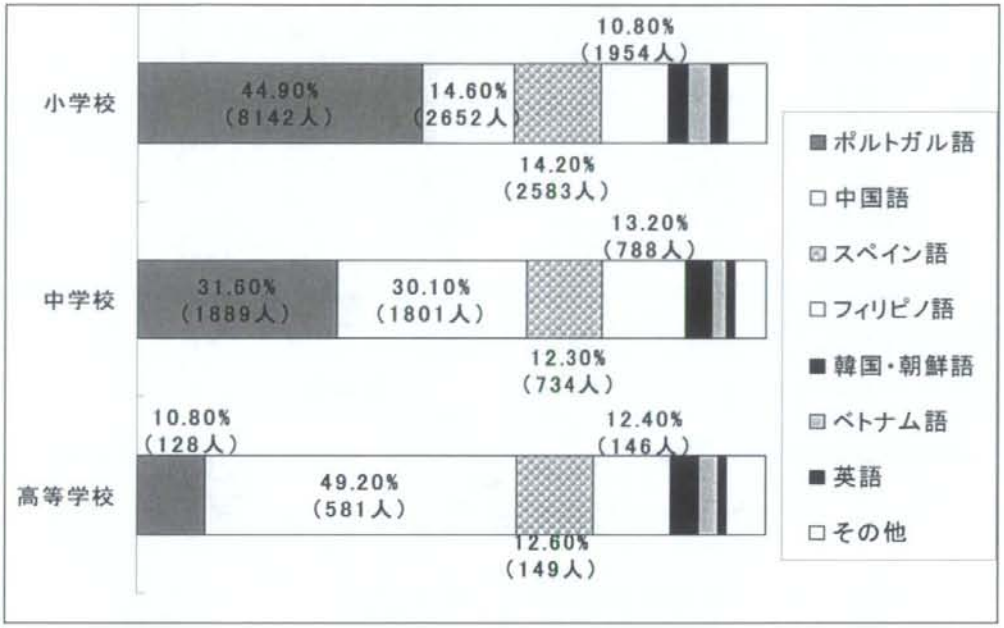
出典:法務局「登録外国人統計調査」　2007 年版

図 3:ブラジル人における外国人登録者　ー年齢別　2007 年末現在



出典:法務局　登録外国人統計調査　2007 年版

図 4:母語別児童生徒数



出典:文部科学省 「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成 19年度)」

日本国内におけるブラジル国籍住民の増加に伴うブラジル国籍児童も増え、図 4 に示されているとおり、日本の学校を通学する子どもので日本語指導が必要とする「ポルトガル語」を母語とする生徒の数は 1 万人以上となっている。 そして、高学年になるにつれ、「ポルトガル語」を母語とする生徒数が減少している。 この減少について、ドロップアウト、帰国、ブラジル人学校への転校、就職など、様々な理由が背景にあると考えられるが、現に、日本の通常の高校に進学するブラジル国籍の若者は非常に少ないことは間違いない。

そして、国内には約 100 校も存在すると推定されているブラジル人学校に通学中の児童数は「日本におけるブラジル人学校協会」によると 1 万人くらいである。

その他、2 万人以上の就学年齢の若者は既に労働市場に入っていると推測される。

移住者(流動労働者)及びその家族における社会的に様々側面で脆弱性が高まることは一般的に知られており、HIV 感染への脆弱性も高いことは一般に広く知られている。

当研究グループは日本の代表的マイノリティーである在日ブラジル人に焦点を当てて研究を進めてきた。特に、若者に関しては成長過程でまだ未熟であり、さらに両国の狭間で生きていると言う現状のなか、より脆弱な立場であると認識している。

2006 年度に実施したブラジル人学校の生徒を対象とした質的調査及び、2007 年度の量的調査で示された状況 – 生活基盤の不整備、両親との離別環境、低年齢での性の初体験、HIV 流行や HIV 検査関連の低認知度、STD 予防や避妊に関する知識の低認知度、など – から、HIV 及び STD 感染、計画外妊娠などについてより一層脆弱性の高い集団となっていることが明なきなった。

ブラジル国の HIV 感染流行に関しては、13-19

歳のおける 2008 年のエイズ報告数は約 1 万 2 千で、19-24 歳の報告数は約 4 万 8 千人で規模の大きい流行となっている(2)。また、日本国内の流行も増加しており(3)、帰国・来日を繰り返す在日ブラジル人コミュニティーにおいては、この二つの流行の影響を受ける可能性があると考えられる。

そして、ブラジル国におけるエイズ予防教育実施状況に関すると、1999 年に、ブラジル国における「エイズ関連の活動状況における全国調査」の結果によって、約 73.4%の学校で何らかのエイズ予防及び、ドラッグ関連の予防教育を実施していると言う結果が得られた。 その内容は約 9 割以上が「reproductive body」、「人を好きなると自尊心」、「ジェンダー」、「思春期における計画外妊娠」、「STD」、「エイズ」、「ドラッグ」などであると明らかになった。また、教育プログラムは公的資金で賄われ、そのパートナーは、「医療機関」及び「保護者」、そして「教会」や「NGO」であることも分かった。

日本国内でも WYSH プログラム(4)や学校内外のける様々な予防事業が転回されつつであるが、その両方のプログラムから疎外されているのはブラジル人学校の生徒である。

ブラジル国及び日本国内における教育プログラムは、日本におけるブラジル人学校への浸透は考えにくい。何故ならば、言語面では、ブラジル国内における予防教育プログラムはポルトガル語で行われるが、文化や文脈は移住と言う特殊な状況とは離れた環境で実施されている。また、日本国内の教育プログラムは、まず、言語の壁があり、そして、やはりが外国籍の流動労働者の子どもおける文脈・文化的背景とはかなり異なる。

従って、当研究の総目的は「日本におけるブラジル人若者の社会文化環境や地域的リソース・問題点を把握し、それに適した有効な予防対策(教育プログラム)を開発し普及する」ことである。

2006年度は「若者」及び「コミュニティーリーダー」を対象に質的調査、ブラジル人学校を対象とした「エイズ教育実態」における量的調査を行った。

2007年度はブラジル人学校の生徒(12歳～20歳)を対象に「HIV関連」における量的調査を実施した。

以降、2008年度における研究について報告をする。

『2008年度における研究報告』

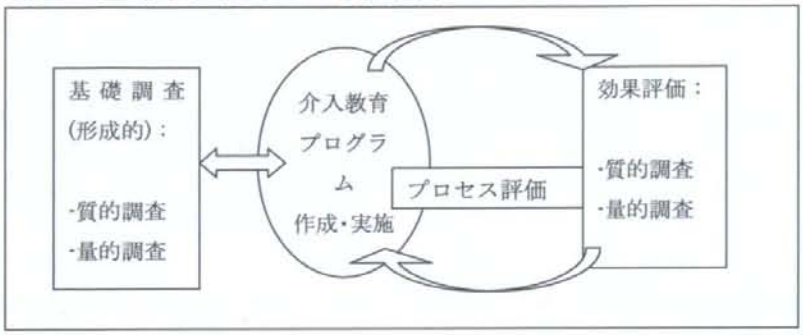
【目的】

2008年度における研究目的は「日本におけるブラジル人学校に通う若者を対象とした予防教育プログラムの開発、実施及び、その評価」であった。

【研究デザイン】

当研究の全体のデザインは本研究班の手法に基づき、形成的準備調査を実施し、介入プログラムの設計・実施し、そして、介入後にプログラムの効果を評価する(one group pre and post test)と言うデザインを用いている。そして、予防介入評価を基に、さらに予防プログラムを修正(適応)・実施し、常に教育プログラムのアップデートを行う。(図 5)

図 5: 日本におけるブラジル人の若者を対象とした研究デザイン



【対象者・方法】

研究対象者はブラジル人学校協会に登録されている学校に通が中の、日本における中・高生にあたる生徒であった。

予防教育プログラム総合的なものを目指して、4 つのツールで構成された:「パンフレット」、「ワークショップ」、「保護者講演会」、「ホームページ」。

《パンフレット》は各学校に電話による対象年齢の生徒数を確認の上、郵送にて送り、担任に配布を願いした。

《ワークショップ》はパンフレット配布対象校のうち、5 校を選択(訪問暦のない学校)し、各学校の生徒を年齢別の2つグループ「低年齢(12-3歳～14-5歳)」と「高年齢(15-6歳～)」に分け、5 時間前後の参加型ワークショップを 2 日間に分けて行った。

《保護者講演会》はパンフレット配布対象及びワークショップに参加した学校のうち2校にて、90分の講演会を保護者会にて実施した。

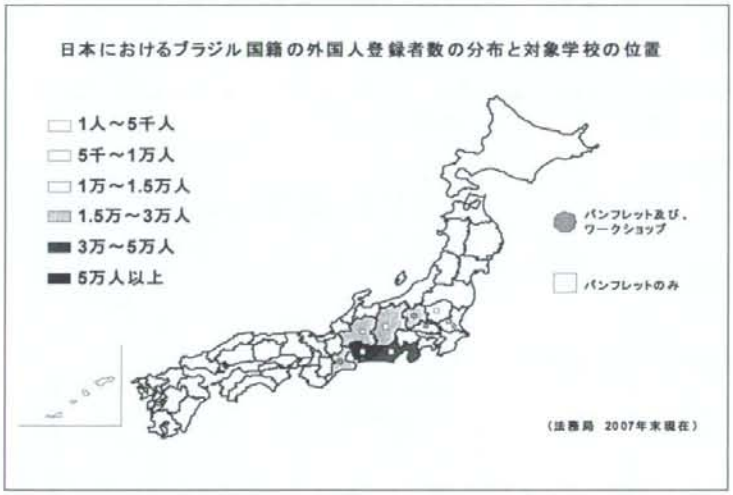
《ホームページ》は前記の3つの介入に参加した学校のうち、1 校の生徒と一緒に作成。

表 3: 予防介入プログラム参加校の所在地及び介入方法と評価参加校

	学校所在地	介入方法				介入後評価方法	
		配布パンフレット部数	ワークショップに参加	保護者講演会に参加	ホームページ作成に協力	介入後聞き取り調査に参加	介入後量的調査に参加
1	埼玉県鴻巣市	25	○	○	○	○	○
2	茨城県下妻市	25	○	○		○	○
3	群馬県太田市	150	○				○
4	三重県鈴鹿市	125	○				○
5	茨城県常総氏	25	○				○
6	愛知県刈谷市	125					○
7	静岡県浜松市	120					○
8	栃木県真岡市	60					○
9	静岡県浜松市	140					○
10	愛知県碧南市	140					○
11	愛知県豊橋市	150					○

12	愛知県豊田市	130					○
13	静岡県袋井市	25					○
14	静岡県磐田市	120					○
15	群馬県太田市	86					○
16	群馬県邑楽郡	60					○
17	岐阜県美濃加茂市	80					○
18	岐阜県大垣市	145					○
19	群馬県邑楽郡	30					
20	静岡県浜松市	27					
	合計	1788	5	2	1	2	18

図 6:予防介入プログラム参加校の所在地及び介入方法と評価参加校の分布



【教育プログラムの内容】

《パンフレット》

22 ページのポケットや財布、つまり、携帯できるうに、名刺よりやや大きいサイズ、中とじパンフレットの内容は:(参考資料 1)

「セックスは急がなくても良い」と言うメッセージ

「セックスへピアプレッシャーに負けないように」と言うメッセージ

「自分がまだだと思う時に相手が迫ってくる時の脱出方法」の例

「相手がコンドームを使いたくない時に解決方法」の例

「セックス容認への判断力に影響を及ぼすドラッグとアルコール」への注意

「若し、セックスをする場合、今の年齢で最も効果的な避妊方法」について

「体外射精における避妊効果は期待できない」とその理由について

「排卵日測定による避妊方法は期待できない」とその理由について

「避妊ピル」について

「HIV・STD・避妊　関連の知識に関する重点項目」

- STD関連（多く見られるSTDの名前、自覚症状がないこともある、HIVに感染しやすい、妊娠できなくなく可能性、子宮頸がんへの脆弱性の拡大）
- ブラジルと日本のHIV流行規模
- 日本における保健所でのHIV抗体検査について
- HIV 感染及び、予防方法
- コンドームの使用方法（男性用・女性用）

パンフレットのコンセプトはブラジルで使用されているものと日本人向けのものの中間的なパンフ、そして、若者に受け入れられるものであった。パンフレット作成には若者の意見も取り入れ、最終版を印刷した。

《ワークショップ》

2 日間に分けて、約 5 時間のワークショップはブラジル国でも良く使用されている参加型、そして、グループワーク、ゲームなどの取り入れた内容であった。

低年齢そして、高年齢の2つのグループを対象に実施し、基本的な内容は共通のものであったが、その深さと情報量を調整した。

内容は次の通りであった:

1日目

（約 10 分間）　名前と年齢の紹介。

簡単なアイスブレーキングを兼ねて、名前、年齢、学年、滞在期間などを聞いた。名前をラベルに書いて、胸に貼ってもらった。

（約 20 分間）　HIV/STD 感染及び計画外妊娠への脆弱性認知（ゲーム）。

アイスブレーキングゲームとして使用し、自己の HIV 感染への脆弱性を認知することが狙いである。

図 6：HIV/STD/計画外妊娠への脆弱性認識ゲーム用紙（ポルトガル語・日本語訳）

DESENHO ORIGINAL:	△
QUADRO 1 COPIE O DESENHO ORIGINAL	
QUADRO 2 COPIE O DESENHO ORIGINAL	
QUADRO 3 COPIE O DESENHO ORIGINAL	
QUADRO 4 COPIE O DESENHO ORIGINAL	
QUADRO 5 COPIE O DESENHO ORIGINAL	

自分のシンボル:	△
表 1 相手の「自分のシンボル」を映す	
表 2 相手の「自分のシンボル」を映す	
表 3 相手の「自分のシンボル」を映す	
表 4 相手の「自分のシンボル」を映す	
表 5 相手の「自分のシンボル」を映す	

「△,○,□,☆」ゲーム：図で示されている養子をを配布し、5 人の友達と話をして、相手のシンボルを自分の用紙にコピーする。最終的に「自分のシンボル」とは別に5つのシンボルが書かれている用紙になり、ゲームの内容、シンボルの意味などについてディスカッションする。

最後に ○は「STD に感染」、□は「HIV に感染」、☆「妊娠」、△は「何もない」での意味を持っていると話をし、ディスカッションする。

(約90分間) 私・僕の体と物語:生殖器、避妊方法(ワーク)。

グループ分けをして、実物の男女の人形を書いてもらい、その人形のストリーを作る(年齢、名前、住まい、幼児期、思春期、将来の夢、自分の自慢、自分の嫌いなところ等)。そして、人形のストーリの基に、発達について触れ、思春期においての重要な変化の 1 つがセクシュアリティーであると言う話しから、生殖器について復習する。

そして、人形においての男女で出会いのストリーを作って、発表する(発表の形は自由:演劇、ナレーションなど)。最後に、男女の物語で、計画外妊娠についてディスカッションし、避妊方法について話をする。様々避妊用具の実物を見せ(ピル、IDU、ペッサリー、殺精子剤、リズム式、女性避妊手術、男性避妊手術、男性・女性用コンドームを見せる)。装着デモンストレーションについては、必要性が問われ為、除いた。

(約 10 分間) 質問時間(紙に書く)。

質疑応答の時間はあるが、紙に書く時間を設け、聞けなかった生徒にも質問できるよう配慮する。(参考資料2)

2日目

(約 20 分間) 1 日目の復習、質問の回答。

生徒に前日のワークショップの内容について話してもらう。その後、紙に書かれた質問に答える。

(約 5 分間) HIV 感染への脆弱性の認知(イメージゲーム)。

生徒に年齢を再度聞き、自分の 10 年後についてイメージし、語ってもらう。その後、今度は自分の 10 年後は HIV に感染しているという状況をイメージし、語ってもらう。

(約 30 分間) HIV 感染の物語(ワーク、演劇)。

前日の人形が HIV に感染する物語を作って、発表する(発表の形は自由:演劇、ナレーション、ストリーを読む等)。

そして、次に、HIV に感染しなかった、つまり、予防できた、と言う設定に変更し、物語をつくり再度発表する。

(約 60 分間) HIV/STD 関連(情報の整理、ゲーム)。

HIV・STD に関しては話をする(重点ポイント)。

最後に、ミニテストを実施し、お互いに回答合わせをし、正解率に応じてプレゼントをあげる(国際電話用のテレフォンカード)

(約 10 分間) 質疑応答

(約 5 分間) 自分との約束。

HIV/STD/計画外妊娠について、カードに自分の将来へ向けての自分との約束を 1 つ書き、自分で持っている。

《保護者講演会》

学校が定期的に開催する保護者会における講演会 (90分)。その内容は:

- HIV/STD 感染への脆弱性認知(ゲーム):生徒向けのゲームと同様のものを導入する。ただし、計画外妊娠を省いて。
- 発達及び思春期における身体・精神的な変化、注意サイン、計画外妊娠などについて:思春期の様々な葛藤を理解する目的で、乳幼児期からの心身の発達について話をし、思春期の変化について重点的に話をした。
- HIV/STD 予防について:簡単に HIV/STD について話をした。

● 研究の説明及び主なデータの紹介：研究の概要、主な結果及び教育プログラムについて話しをした。

《ホームページ作成》

生徒と一緒にホームページを考え、作成するのが狙いである。協力生徒にホームページ用の文書作成方法に関するワークショップを2回実施し、言葉や注目を呼ぶ文書、及びネット上での倫理について話をした。

当研究グループで設定したテーマ及び、生徒にとって最も重要であるテーマについて自由に書いて投稿してもらい、また、ホームページのレイアウトに関しては当研究グループが見本つくり、それをたたき台にして、色やロゴなどを考えてもらった。また、情報提供の部分は当研究グループが文書を作り、投稿する(HIV/STD 関連、避妊方法、思春期における心身の健康、コンドームへのアクセス、など)。(※ホームページに関しては、現在まだ作成中である)

〔結果：プロセス評価〕

《パンフレット》

2008 年 5-6 月にかけて、協力学校 20 校における 13 歳以上の生徒に配布した。合計 1788 部配布した。

《ワークショップ》

パンフレット配布対象学校のうち、5校を対象に実施し、合計約 220 人が参加した。スケジュールは下記の通りである。

茨城県下妻市	6 月 3・17 日
埼玉県鴻巣市	6 月 20・27 日
茨城県常総氏	11 月 17・20 日
三重県鈴鹿市	12 月 1・11 日
群馬県太田市	12 月 2・4 日

《保護者講演会》

パンフレット及びワークショップ参加校のうち、2 校にて実施し、合計約 100 人が参加した。

茨城県下妻市	10 月 26 日
埼玉県鴻巣市	11 月 30 日

《ホームページ作成》

埼玉県鴻巣市の生徒に協力をしてもらい、12 人が参加した。ホームページ作りの基本に関するワークショップは 2 回実施した。そして、現在、関係者回覧用の試作が完成している。

ワークショップの実施日は　11 月 21・28 日(埼玉県鴻巣市)

アドレス：

http://www.vidadolescente.sakura.ne.jp

〔介入後における評価〕

質的調査

教育プログラムの内容についてインフォーマルな聞き取り調査を実施し、「パンフレット」及び「ワークショップ」について聞いた。

その結果、プログラムの微調整を行ったが、「提供内容」に関しては充分であり、「ワークショップ実施方法」に関しては参加型で、基本的には良い評価であった。

コドーム装着のデモンストレーションは必要はないと言う結果が得られた。

量的調査

量的調査では、無記名自記式アンケート調査票を用いて、回答後にシールで封できるように配慮した。アンケート調査票の内容は次の通りである。

【属性】 性別、年齢、学年、滞在回数及び期間、過去の来日時期

【現在の生活への満足度及び、日本における暮らしへの満足度】

【将来の夢について】 将来への目的

【朝帰り経験の有無、頻度及び、遊び場所について】

【インターネットアクセスの有無、頻度、目的及び、ネット上での様々な経験について】

【喫煙、飲酒、援助交際、ドラッグ、いじめ、万引き、暴力、自傷行為などの経験について】

【その場限りの付き合い経験の有無、ステディな恋愛経験の有無、性交渉経験の有無、それぞれの交際種類の初体験の年齢、相手の年齢、人数などについて】

【コンドーム使用の有無、使用の目的について】

【妊娠経験について(自身又は相手)】

【HIV、Aids、STD、避妊方法関連の知識について】

【予防意識、予防に対する実行力意識について】

【介入ツールへの暴露について】

アンケート調査の結果

2007年のアンケート調査には24校が参加したが、2008年においては、閉鎖校や対象年齢生徒の不在により、また、1校においては、パンフレット配布後に閉鎖した為、最終的に介入後のアンケート調査対象校18校であった。

回収率

回収率は100%(18/18)であり、分析対象アンケート数は984件であった。

《集団の属性》

男女構成

男女構成に関しては、女子が525件(54.7%)、男子が434件(45.3%)で、男女比は0.8:1であった。

年齢構成

平均年齢は15.44±1.4歳で、最小年齢が13歳、最高年齢が21歳であった(12歳19件及び28歳以1件を分析母体から除いた)。

来日状況

来日状況や滞在危難に関して、約5割が「初めての来日」であると回答し、その平均滞在期間は約4年7ヶ月であった。

また、今回は「2回目の来日」であると回答した生徒は全体の約26.6%(253/951)、そして「3回目の来日」は13%(123/951)であった。

来日が複数回であると回答した生徒における1回の滞在期間は約2.5年であった。(表4)

表4:ブラジル人学校調査2008 － 来日状況

来日状況:	
来日は「はじめて」: 47.8% (455/951)	滞在平均年数: 4年7ヶ月±3年9ヶ月
来日は「複数回」: 42.2% (399/951)	今回の滞在平均年数: 3年7ヶ月±3年

来日は「複数回」の内訳:		
来日は「2 回目」: 67.3% (253/376)	1 回目の来日平均年齢: 4.1 歳±3 歳	1 回目の帰国平均年齢: 7.4 歳±3.3 歳
来日は「3 回目」: 32.7% (123/376)	2 回目の来日平均年齢: 8 歳±2.6 歳	2 回目の帰国平均年齢: 10.6 歳±2.7 歳

〔現在の状況への満足度〕

「現在の人生に満足しているか」と言う質問に対し、「満足している」と回答したものは、女子で 42.7%、そして男子では 52.3%であった。

そして、「日本の暮らしに満足しているか」と言う質問に対し、「満足している」と回答した生徒は女子で 66.3%、男子で 68.3%と異なった。

両質問に対し、「満足」と言う回答には「とても満足している」と「満足している」と回答した生徒を合わせて「満足」として分析をした。(表 5)

表 5:ブラジル人学校調査 2008 － 現在の状況における満足度

現在の人生に満足している: 「とても満足＋満足」	
女子	42.7% (221/518)
男子	52.3% (225/430)

日本滞在に満足している: 「とても好き＋好き」	
女子	66.3% (347/523)
男子	68.3% (294/431)

〔将来計画〕

「将来の目的はなにか」と言う質問に対し、複数回答で、男女別で調べると男女ともにがもっと多い回答であった。

しかし、「ブラジルの大学へ進学する」と回答したのは女子で約 61%、男子で少な目の約 50%であった。

また、男女比較では「他国に住む」、つまり、日本でもブラジルでもない他国に住みたいという目的について、女子で 25.6%、そして男子で 13.6%見られた。

将来の目的として、「日本に住む」と回答したのは男子のほうが多く 15.2%に対し、女子は僅か 6.9%であった。(表 6)

また、年齢別で調べると、女子では年齢が高くなるにつれ、「経済的な安定」及び「しばらく日本で仕事をして帰国する」と回答した女子が低年齢層に比べて上昇し、「ブラジルで専門職で成功する」に関しては年齢が高くなるにつれ上昇している。

男子では、「高校を卒業する」及び「他国に住む」は年齢とともに上昇しているが、「ブラジルで専門職に就く」及び「日本に住む」は年齢とともに減少している。(表 7)

表 6:ブラジル人学校調査 2008 － 将来への目的(複数回答)

将来の夢について		
(複数回答)	女子	男子
ブラジルの大学に進学	**60.7%**	**50.3%**
高校を卒業する	38.5%	**42.5%**
経済的に安定する	**42.2%**	35.8%
家庭を持つ	30.0%	33.3%
他国に住む	**25.6%**	**13.6%**
ブラジルでプロフェショナルになる	19.1%	16.4%
日本に住む	**6.9%**	**15.2%**
しばらく日本で仕事をして帰国する	13.2%	13.9%
自営業につく	13.4%	13.4%

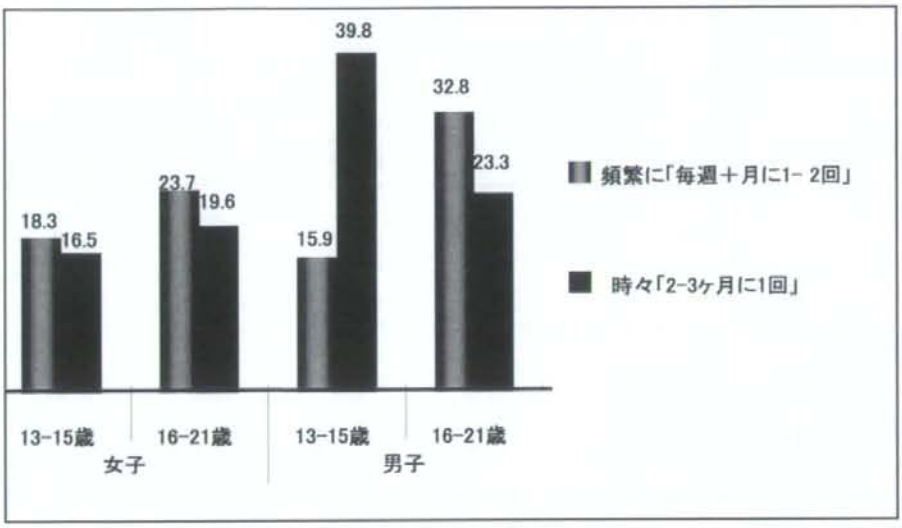
表 7:ブラジル人学校調査 2008 － 将来への目的:男女・年齢別 (複数回答)

将来へも目的について	女子		男子	
(複数回答)	13-15 歳	16-21 歳	13-15 歳	16-21 歳
ブラジルの大学に進学する	60.1%	61.8%	48.9%	51.8%
高校を卒業する	39.6%	39.5%	**39.2%**	**46.7%**
経済的に安定する	**39.2%**	**47.7%**	35.2%	37.1%
他国に住む	26.6%	22.7%	11.0%	17.3%
ブラジルで専門職につく	**8.6%**	**19.5%**	**21.6%**	**11.2%**
日本に住む	7.6%	5.9%	**18.5%**	**11.2%**
暫く日本で仕事して帰国する	**10.1%**	**17.3%**	12.3%	14.2%

〔夜遊びして朝帰り〕

「朝帰り」に関して、女子のほうが全体的に男子より「頻繁に朝帰りする」傾向があり、かつ、年齢が高くなるにつれ、「頻繁に朝帰りする」と回答した女子がやや上昇していた。そして、男子では、明らかに年齢が高くなるにつれ、「時々朝帰りする」から「頻繁に朝帰りする」へシフトしていることが分かった。(図 7)

図 7:ブラジル人学校調査 2008 － 「夜遊びして朝帰り」の状況 頻度と男女・年齢別



そして、朝帰りする時の行き先は、最も多い行き先は「友達の家」で、全体の約７割。

男女ともに年齢が高くなるにつれ「ディスコ」が多くなり、男子では「公園・駅・野外」が上昇していた。

また、「恋人の家」に行くに関しては、女子で年齢が高くなるにつれ多くなり、男子では、年齢が高くなるにつれ減少している。行き先が「ゲームセンター」であると回答した生徒は、男子の方が多く、かつ、男女で年齢が高くなるにつれ、「ゲームセンター」(図 8)

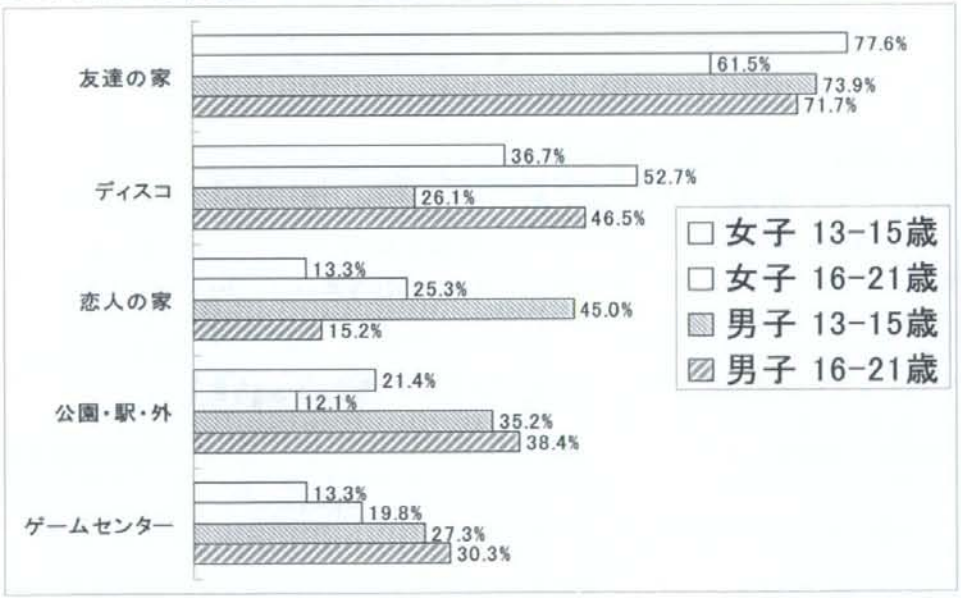



図 8:ブラジル人学校調査 2008 － 「夜遊びで朝帰り」する時の行き先　男女・年齢別(複数回答)